

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム グース 1F		
所在地	北海道函館市花園町24-3		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに過ごして頂けるようスタッフ一同日々活発に意見を出し合い、相談し実現に取り組んでいます。年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、健康維持のためのリハビリ体操・嚙下体操を行っている。食事に関しては、当グループホーム関連会社が配食産業の会社であり、ご高齢の方に最適な食生活を提供することを責務をしている。また、全道各地に同グループの事業所があり、連携をとっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームグース」は、函館市の中心部より東へ車で20分ほど離れた住宅街に開設して11年目を迎える事業所である。近くには市営住宅や病院・保育園・コンビニがあり、敷地の傍らの鮫川に沿って遊歩道や公園が整備されていて自然環境に恵まれた立地である。居間や食堂は三方に大きな窓があり、一日中陽が入り明るく開放感のある造りになっている。玄関や居間にお雛様と桃の花を飾り、各居室入口には小さな額に入ったドライフラワーを掲げて、事業所の至る所に季節感や生活感を醸し出して温かい家庭的な雰囲気が感じられる。管理者は、理念の唱和を職員に突然促して意識づけを図ったり、定期的に勉強会を行って職員の質向上を目指し、常に前向きに取り組んでいる。地域の劇団「花園一座」の観劇は、利用者の大きな楽しみ事になっており、毎年出かけて地域の方々と積極的に交流している。管理者と職員は、利用者に一日1回大声で笑っていただくことを目標にして、日々楽しく暮らせる工夫をしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「敬愛」を重視して統一したサービス向上に努めている	事業所と地域との交流を大切にした独自の理念を作り上げている。管理者と職員はミーティングや勉強会で話し合い共有して、日々実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物に参加し、また保育園児との交流を通し地域との関わりを大切にしている	利用者は、七夕の時は玄関先で子供達にお菓子手渡したり、子供達からプレゼントをいただきお互いに交流している。利用者と職員と一緒に年末にカレンダーとタオルを持ってご近所に挨拶回りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、町内会役員の方に避難訓練などの参加して頂き、非常時の体制を確認している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、ご家族様や町内会の方々のご意見、ご提案をサービスに繋げている	町内会や包括支援センター・家族・マッサージ師など様々な立場の方が出席して定期的を実施している。案内や議事録は面会時に手渡ししたり、遠方の方には郵送し、意見を引き出している。今後は話し合いのテーマを決めて会議の内容を充実する意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所で行われる研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアに取り組んでいる	市の担当者とは、おむつの申請など些細な事でも気軽に相談出来る良好な関係が築かれている。ケースワーカーの訪問が定期的であり、利用者の暮らしぶりも報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束かどうか考え、入居者様の安全において必要と思われる時は家族の同意を得て行っている	虐待や身体拘束禁止に関する法人マニュアルを整備して全職員に配布している。勉強会用のマニュアルも用意しており、毎月のカンファレンス後に内部研修を実施して全職員で共有を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部、内部の研修に積極的に参加し、正しく認識し、注意を払い、虐待防止に努めている		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には自立支援を必要とされる方にはご家族様と連携し活用し、成年後見制度を利用している方には後見人と連携し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約等に関する内容を文書で説明し、内容を十分に理解、納得して頂けるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様より要望等を聞き取り、ご家族様からアンケートや来所時電話で意見や要望を聞き取り行っている	家族の面会時に、些細な事でも話せる様に各職員が挨拶や声かけをして、気軽に話せる温かい雰囲気づくりに配慮している。意見や要望は、申し送りノートに記載して全職員で共有し、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やスタッフ会議等で意見や提案を聞き機会を設け、運営に反映できるよう努めている	管理者は、年2回の個人面談と日常的に職員の意見や要望を丁寧に聴き、表出した課題は全職員で話し合い、業務改善などに繋げて働きやすい環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努める		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部の研修参加を積極的に行い、知識や技能の向上を個々、又はチームで活かせるよう推進している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会やブロック毎の会議、勉強会等にてサービスの質の向上、交流を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人様からこれまでの生活状況を伺い、把握しその方に個々の入居者様にあつた対応を考え、安心して生活して頂けるよう努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや要望等を話合える関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が今求めている支援を見極め対応し、必要であれば他のサービスにも繋げいけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が得意な事、出来る事を把握し行なって頂き、職員と入居者様が共に支え合える関係が築けるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会や家族様との外出などを支援し、行事の際にはご家族様にも参加呼びかけをし、ご本人様と一緒に過ごして頂けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、ご家族様へお手紙を送り、ご本人様の様子をお伝えしている。また、ご自宅へ外泊される際にも支援行っている	友人や知人・姉妹が来訪し、居室や居間で利用者と一緒にゆっくりと過ごしている。家族と一緒に美容院や懐かしい場所を訪ねたり、外食に出かけている。近くのコンビニエンスストアとは、馴染みの関係が構築されていて、よく買い物に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人一人の性格などを理解して、入居者様同士がより良い関わりが持てる様支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、今までの関係を大切にし、ご家族様の相談支援に協力します		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの会話や見守りの中からご本人の希望や意向の把握に努める	日頃の関わりの中で何気ない言葉や表情から真意を察したり、居室などで1対1でゆっくり傾聴して、思いや意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴の把握と個室には好みの家具や私物を用いて頂き、サービス利用の経過の把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察からできる事できない事の把握に努めており、体調や気分に合わせてお手伝いを行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様が楽しく生活をして頂くため、課題、ケアの在り方を、ご家族様、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している	利用者担当職員がモニタリングをし、それを基に計画作成担当者と全職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。短期目標の具体的な項目に沿って実施状況を介護記録に記載して、変化や課題発見に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティング等でスタッフ関係者と話し合いをしながら、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会等で意見交換等を行い病院支援や個々の入居者様の必要に応じ買い物代行等柔軟な対応ができるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や近隣保育園児の訪問などボランティアの方にも来て頂き交流を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられるよう支援を行っている	契約時に今までのかかりつけ医や希望する医療機関を確認して、継続受診や往診が受けられるように支援している。受診同行は家族と相談しながら職員が同行することもある。受診結果は、面会時や電話で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域近隣の協力病院と医療連携をとり、週1回、健康管理指導看護師と相談や情報の共有をしている。又入居者様が適切な受診や看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族様に報告し、病院関係者へ情報提供、相談を行い関係作りに取り組んでいる		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化、終末期等の意向を確認の上、十分に説明を行い、方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている	重度化・看取りにかかわる指針を作成して、事業所として対応し得る最大のケアについて、契約時に本人や家族に十分説明し、同意を得ている。利用者の状況の変化に応じて医師・家族・事業所が連携し、方針を共有してチームで支援する意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が職員全員行えるよう、講習、勉強会に参加し知識を深めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中又は夜間を想定し年2回の防災訓練を行っている。職員が確認できるよう避難所マップを掲示している	消防署の指導の下、地域の方も参加して昼夜を想定した防災訓練を定期的実施している。おむつや水・食料などの備蓄品を整備している。町内会便りで今後も協力を呼びかけて行く意向である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人の気持ちやプライバシーを考え言葉かけに工夫し対応している	接遇やマナーの勉強会を行っている。トイレや入浴など羞恥心が伴う介助は、細心の注意を払っている。書類の管理は、施錠できる保管庫で管理して責任ある取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し、自己決定ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の声に耳を傾け、それぞれのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に添った身だしなみやおしゃれに対する支援をしている		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器拭きなどのお手伝いをして頂いている。	食材は契約業者から届けられ、調理は事業所で行い利用者は下ごしらえや盛り付け、後片付けの作業を職員と一緒にやっている。菜園の収穫物は、食卓を豊かにしている。おやつ作りは楽しみ事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った摂取量を把握し、食事形態等工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みの飲み物やゼリー、トロミ剤等を使用し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ対応している。ご本人様の不十分な部分のお手伝いを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認等を行っている	排泄パターンは把握しているが、動作や雰囲気を感じて、さり気ない声かけや誘導・排泄確認をして、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れている。牛乳等の飲用を促したり、体操や歩行にて運動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。又個々の排泄パターンを把握し、便秘時には主治医より処方された薬を服用して頂いている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせ、気持ちよく入浴できるよう支援している	週2回から3回、午後から入浴しているが、本人の体調や希望を考慮して午前中の入浴にも対応している。入浴中は歌を唄ったり、昔の話をして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望の添った対応にて、安心して休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等の把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。又行事、お誕生会、散歩など楽しんで頂けるよう支援している		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は気分転換に外に散歩したり、お花畑を見に行ったり、行事の際は、地域の方々と接したりしている	外気に触れることを大切に考えていて、事業所周辺をゴミ拾いをしながら散歩したり、近くのコンビニへ買い物に行っている。ユニット同士の交流も盛んに行っている。個別対応で近くをドライブしてソフトクリームを食べるなど気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の管理能力に応じお小遣いを所持して頂いている。買い物はできる限り同行しての支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じスタッフが代理で電話を掛けたりかかってきた電話にてお話しして頂いたり、自ら手紙を書けるよう支援している。届いた手紙はご本人様に手渡し確認して頂いている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事によりフロア内の装飾を変えて対応している。共有の空間には施設ごとの装飾や、行事や誕生日会等での写真を飾っている。必要に応じ遮光、室温調整、換気等を行い、快適に過ごして頂けるよう努めている	台所で作業をしても居間にいる利用者様の様子を見守ることが出来様に、明るく開放的な造りになっている。気になる臭いや音もなく温度や湿度も適正に管理されている。居間の一角に4.5畳ほどの小上がりがあり、雛人形を飾って季節感や和風の雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファ、食卓テーブル席、畳コーナーもあり自由に利用できるよう支援している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物を使用してしてご家族様とともにお話しして居心地よく過ごして頂ける工夫をしている	各居室にクローゼットが備え付けられていて、使い慣れた家具やお気に入りの品々を持ち込んでも、広さに余裕があり、スッキリとして清潔感のある個人的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、手すり設置している。できるだけご本人様の生活パターンに合わせて見守り、お手伝い行う事で安全、穏やかに過ごして頂けるよう支援している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム グース 2F		
所在地	北海道函館市花園町24-3		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに過ごして頂けるようスタッフ一同日々活発に意見を出し合い、相談し実現に取り組んでいます。年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、健康維持のためのリハビリ体操・嚙下体操を行っている。食事に関しては、当グループホーム関連会社が配食産業の会社であり、高齢の方に最適な食生活を提供することを責務をしている。また、全道各地に同グループの事業所があり、連携をとっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400308-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個性の尊重し、ご家族様の安心、地域との関わり等、理念に基づいたサービスを提供している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物に参加し、また保育園児との交流を通し地域との関わりを大切にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、町内会役員の方に避難訓練などの参加して頂き、非常時の体制を確認している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、ご家族様や町内会の方々のご意見、ご提案をサービスに繋げている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や保健所で行われる研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアに取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束かどうか考え、入居者様の安全において必要と思われる時は家族の同意を得て行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加、施設内での勉強会を通し虐待防止に繋げている		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援を必要とされる方にはご家族様と連携し活用し、成年後見制度を利用している方には後見人と連携し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約等に関する内容を文書で説明し、内容を十分に理解、納得して頂けるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様と日々の関わりの中から意見、要望を聞き取り、サービスに反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はスタッフ会議等で検討し、運営に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し個々の努力、実績に認め、やりがいの持てる職場環境作りに努める		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や外部の研修参加を積極的に行い、知識や技能の向上を個々、又はチームで活かせるよう推進している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会やブロック毎の会議、勉強会等にてサービスの質の向上、交流を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時にご本人様のお話を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや要望等を話合える関係作りに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先すべき支援を判断し対応、後のサービスに繋げ、良いサービス支援に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩として尊敬し、共に生活し生きていくという考えのもと支援している			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望、要望に添える様に努め、ご本人様にとって良い生活になるよう支え合っていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の友人、親戚等交流のあった方々との関係を大切に、来訪時は居室、フロアにてゆっくり楽しんで頂けるよう努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、行事や日々のお手伝い等を通じて、入居者様同士の交流できる支援をしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時も郵便物等が届いている場合には連絡を入れ、必要に応じ転送や御様子を伺う事を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの会話や見守りの中からご本人の希望や意向の把握に努める		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴の把握と個室には好みの家具や私物を用いて頂き、サービス利用の経過の把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察からできる事できない事の把握に努めており、体調や気分に合わせてお手伝いを行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合い、ご本人様や御家族様の意向を大切に、その方に合った介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、職員間で情報を共有しながら必要に応じ介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会等で意見交換等を行い病院支援や個々の入居者様の必要に応じ買い物代行等柔軟な対応ができるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や近隣保育園児の訪問などボランティアの方にも来て頂き交流を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられるよう支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域近隣の協力病院と医療連携をとり、週1回、健康管理指導看護師と相談や情報の共有をしている。又入居者様が適切な受診や看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族様に報告し、病院関係者へ情報提供、相談を行い関係作りに取り組んでいる		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化、終末期等の意向を確認の上、十分に説明を行い、方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が職員全員行えるよう、講習、勉強会に参加し知識を深めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中又は夜間を想定し年2回の防災訓練を行っている。職員が確認できるよう避難所マップを掲示している		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人の気持ちやプライバシーを考え言葉かけに工夫し対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し、自己決定ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の声に耳を傾け、それぞれのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に添った身だしなみやおしゃれに対する支援をしている		

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器拭きなどのお手伝いをして頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った摂取量を把握し、食事形態等工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みの飲み物やゼリー、トロミ剤等を使用し対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ対応している。ご本人様の不十分な部分のお手伝いを行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認等を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れている。牛乳等の飲用を促したり、体操や歩行にて運動への働きかけを行い、予防に取り組んでいる。又個々の排泄パターンを把握し、便秘時には主治医より処方された薬を服用して頂いている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせ、気持ちよく入浴できるよう支援している			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望の添った対応にて、安心して休めるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等の把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。又行事、お誕生会、散歩など楽しんで頂けるよう支援している			

ふれあいの里 グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に買い物やドライブに出掛けたり、天気の良い日や暖かい季節などはご本人様の希望を聞き散歩なども行っている			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の管理能力に応じお小遣いを所持して頂いている。買い物はできる限り同行しての支援行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じスタッフが代理で電話を掛けたりかかってきた電話にてお話しして頂いたり、自ら手紙を書けるよう支援している。届いた手紙はご本人様に手渡し確認して頂いている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事によりフロア内の装飾を変えて対応している。共有の空間には施設ごとの装飾や、行事や誕生会等での写真を飾っている。必要に応じ遮光、室温調整、換気等行い、快適に過ごして頂けるよう努めている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファ、食卓テーブル席、畳コーナーもあり自由に利用できるよう支援している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様とも相談し、ご本人様の好みや使い慣れた物を使用して頂き環境作りを行っている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、手すり設置している。できるだけご本人様の生活パターンに合わせて見守り、お手伝い行う事で安全、穏やかに過ごして頂けるよう支援している			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム グース

作成日：平成 28年 2月 24日

市町村受理日：平成 28年 3月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災対策として、避難所マップ等を掲示したり、年に2回の防災訓練を実施している。今回、調査員の方より、防災訓練時の際にも個々のネーム(基本情報・家族の連絡先・お薬情報など)を準備し活用しているところがあるとの情報を頂き、今後当ホームにでも実施していきたいと考える。	災害時の際に、個々の情報が寸時にわかる事で、医療や介護を受ける際、スムーズに行って頂くことができる。	一人一人の首より下げて頂くネームを作成 ・ご本人様の基本情報 ・家族の連絡先 ・お薬情報 ・当ホームの住所・電話番号等の連絡先 避難訓練時等にも使用していく。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。